

## 豚の産肉能力に関する試験（直接検定）

三浦成見<sup>1</sup>，海老沢重雄<sup>2</sup>，大石 仁

Swine Performance Testing

Narumi MIURA, Shigeo EBISAWA, Hitoshi OHISHI

### 要 約

当研究所が飼養している血統明確で体型・資質に優れた系統造成の途中世代豚および改良中の種豚について、(社)日本養豚協会豚産肉能力検定規程(平成17年4月1日付け、最終改正)に準じて、産肉能力の検定、直接検定を実施した。結果は検定終了49頭中45頭が合格し、系統造成試験の選抜に用いた。

キーワード：直接検定、種豚

### 緒 言

優れた種豚を選抜することを目的に、(社)日本養豚協会豚産肉能力検定規程(以下、「検定規程」という)に準じて検定を実施した。産肉能力検定成績に基づいた優良種豚を選抜利用することにより、種豚改良の一層の促進と系統造成の推進を図る。

### 材料および方法

#### 1 直接検定

##### 1) 検定豚

ランドレース種49頭(雄)を実施した。

##### 2) 検定方法

検定豚を規格に沿った検定豚房において、検定用に定められた飼養管理により体重30～105kgまでの期間飼養し、各調査項目を調査し、成績判定基準により合否を判定した。

##### 3) 調査項目

###### (1) 1日平均増体重

個体毎に検定期間中の増体重と所要日数から算出した。体重測定は1週間に1回、105kgに近づいた時は毎日、一定の時刻に測定を行った。

###### (2) 飼料消費量および飼料要求率

個体毎に検定期間中の飼料摂取量を記録し、次式により飼料要求率を算出した。

$$\text{飼料要求率} = \frac{\text{飼料消費量}}{\text{増体量}}$$

##### (3) ロース断面積・背脂肪層の厚さ

105kg到達後、超音波測定器を用いて体長1/2部位のロース断面積・背脂肪層の厚さを測定した。

##### (4) 種豚としての適格性

検定終了時に一般体型、肢蹄の状態、繁殖能力等について種豚としての適格性を審査した。

#### 2 飼料給与及び飼養管理

直接検定豚及び併用検定豚、調査豚とも検定用飼料(新豚産肉検定マッシュ)を不断給餌し、水は自由飲水とした。

### 結 果

直接検定の成績概要を表1に示した。検定実施頭数はランドレース種49頭で、終了頭数は49頭、合格豚は45頭であった。

その成績をランドレース種系統造成の第3世代豚雄の2次選抜に活用し、合格豚より10頭が選抜された。

### 参考文献

1 現 茨城県畜産センター

2 現 茨城県鉢田地域農業改良普及センター

1) 社団法人日本種豚登録協会, 1991, 産肉能力検定実務書

表1 直接検定の成績

品種	性	調査頭数			30kg 日齢	105kg 日齢	1日平均 増体重 ( g )	飼料 要求率	ロース 断面積 ( cm <sup>2</sup> )	背脂肪 の厚さ ( cm )	種豚の 適合性	合格率 ( % )								
		開 始	終了																	
			合 格	不 合 格																
ラント'レース種 ( 終了豚成績 )	雄	49	45	4	0	67 3.93	144 8.43	980 96.90	3.15 0.29	29.0 2.34	1.6 0.23	適 47頭	91.8							
( 合格豚成績 )						67 3.69	144 8.22	982 95.20	3.15 0.29	29.3 2.10	1.6 0.20									
						73 60	164 129	1169 774	3.79 2.60	35.4 21.5	2.2 1.2									

※ 数字は上段から平均値、標準偏差、最大値、最小値